

MONTHLY

神變別冊

宗派だより

令和6年3月号

醍醐寺開創

150年

令和六年三月六日発行

発行所 真言宗醍醐派宗務本庁

京都市伏見区

醍醐東大路町二十二

電話 〇七五―五七―一〇〇〇二

FAX 〇七五―五七―一〇〇〇二

今月の掲載内容

- ・ 醍醐寺開創千五十年 慶讃大法要を迎えるにあたり 1
- ・ 録事 2
- ・ 宗派だより 3
- ・ 末寺・教会・醍醐寺だより 3
- ・ 本庁からのお知らせ 3
- ・ 醍醐寺からのお知らせ 3

醍醐寺開創千五十年慶讃大法要を迎えるにあたり

大原 弘敬

醍醐寺は千年という悠久の時を経て、本年開創千五十年慶讃大法要を迎えます。

永い歴史の中では、落雷や応仁・文明の大乱の余波によって、堂宇がことごとく灰燼に帰してしまふ法難にも堪え忍び、先人の叡智の結集によって天曆盛時の姿を今に留め、平成六年十二月には世界文化遺産に登録され、木の文化・紙の文化の伝承の宝庫でありますことは、法悦至極に存じます。

さて、この節目の年に醍醐寺執行長・醍醐派宗務総長として大役を担うことになりましたのも仏縁であり、天命であると深く心に刻み、改革の為、不撓不屈の精神で不惜身命を貫く覚悟でございます。

凜とした静寂の中、醍醐寺境内の梵鐘の音と共に三寶院本堂の朝勤行の読経が始まります。堂内に読経の渦巻くなか、「なぜ理源大師は、笠取山に草庵を結んだのであろうか」と理源大師に思いを巡らせます。

『醍醐寺縁起』によれば、

聖宝は貞観寺の一部であった普明寺（現在の京都市伏見区深草のあたりに位置したお寺）で七日間仏法相應の霊地を与えられんことを祈念したところ、笠取山に五色の雲がたなびくのを見つけて登ります。そして湧き出る泉の水を飲んで「醍醐味である」と称賛する老翁に出逢い

ます。聖宝は「ここに精舎を建設して、仏法を弘めるために永くその基礎となるようにしたい」と思うのですが、どうでしょうか」と問うたところ、老翁は「この山はかつて仏が修行された所で、諸天が仏をお護りし、仏がさまざまなことをなさった所である。すぐれた神のおられた所、如意宝生する嶺、功德集聚する林…云々、自分はこの山の地主神である。この山を永く和

尚にさし上げるが、仏法を弘め人々を救うために、自分もあなたを護るであろう」と述べ、たちまちに見えなくなりました。この地主神は横尾明神という神でした。このように、醍醐寺は聖宝理源大師が貞観十六年（八七四）に上醍醐山上で地主横尾明神の示現により、醍醐水の霊泉を得、草庵を建て、准胝、如意輪の両観音像を安置したことから始まります。

他方、霊泉と龍とのかわりも深く、古代中国の戦国時代に書かれた『管子』にも「龍は水から生ず」と記されています。

諸説ありますが「清瀧権現（善女龍王）」は、延喜二年（九〇二）頃に聖宝により現在の安置所である醍醐寺山頂に降臨し留まったという伝承があります。清瀧権現は密教を守護する女神であり、弘法大師空海が中国より帰国する際、共に海を渡り、神泉苑で請雨修法の際に出現し、日本に飛来し複数の寺を巡った後、醍醐寺に伝

えられる真言密教を守護する女神となったと言われています。

理源大師が自ら刻まれた准胝観音・如意輪観音は清瀧権現の本地仏であることから、この霊泉の湧く聖地に、いかに重きを置かれていたかはたやすく推察できます。

ところが醍醐寺の鎮守である清瀧権現降臨地（本宮の峰）や奥の院は、近年の度重なる風水害などの影響をうけ、荒廃の極みであり、立ち入るものもない危険な状況であります。私は一刻も早く、この霊地を再興いたしたく皆様方のご理解とご協力を切に願うところでございます。来る開創千五十年慶讃大法要に向け、全末寺・教会教師・修験道行者・醍醐青年会会員諸師・法縁の皆様、一人ひとりの愛山護法の念と、お力を集結し、一味和合・大同団結し、厳肅かつ盛大裡に無魔成満させていただけますよう伏してお祈り申し上げます。

既に公表させていただいております記念事業であります「法流の杜」に対しましても、少子高齢化・人口減少・物価高騰・宗教心の希薄化・宗教界の信用の失墜等、大変厳しい状況下での御寄進には心痛む思いでございますが、どうかご理解ご協力の程を重ねてお願い申し上げます。南無聖宝尊師 合掌

録事

▼責任役員任命

令和五年十一月十二日

三河西部 明星院

神山 澄明
神山 友子

十二月十七日

大阪 弘詮寺

菱本 智広
谷 真光

令和六年一月八日

新潟 菅谷寺

荒木 晃道
山岸 悦子

一月十一日

大阪 八代龍王神感寺

岩佐 昌暢
東盛 康二
井塚 融

島根 秋葉寺

松本 勉

一月二十日

三河東部 法嚴寺

坂巻 恵介
大江 泰枝

三河東部 壽命院

森 充善
森 宣幸

三河東部 快泉院

三宅 孝雄
中村 勝

三河東部 威寶院

朝岡 優子
永井 孝始
鈴木 幸久

▼総代委嘱

令和五年十一月十二日

三河西部 明星院

本間 徹

令和六年一月九日

和歌山(直) 空海院

森川 靖明
森川 清治

一月十一日

尾張 大龍院

安藤 正之
伊藤 修一

大阪 八代龍王神感寺

河井 講一

島根 秋葉寺

岩佐 信子
岩田 剛史

一月二十日

三河東部 法嚴寺

高橋 仙夫
草間 清利

三河東部 壽命院

伊藤美由貴
森 紀英

三河東部 快泉院

森 宣幸
森 恵美子

三河東部 威寶院

戸荻 達仁
戸荻 敏

三河東部 良源寺

小泉 栄男
村尾 光弘

一月三十日

肥前 小出 泰一

伊藤 勝久

伊藤 勝久

伊藤 勝久

伊藤 勝久

伊藤 勝久

伊藤 勝久

伊藤 勝久

▼承認・証明

令和六年一月三十一日

新潟 醫王院

宗教法人解散の件

▼死亡

平成二十九年八月二十日

兵庫 権律師

兵庫 小森 直栄

令和六年一月六日

兵庫 大律師

兵庫 氏脇 晃妙

一月十二日

大阪 権中僧都

金山 好善

〔お詫びと訂正〕

「神変別冊宗派だより」令和六年二月号三頁中段「録事」の「責任役員任命」の記事の中で「十二月一日 三河東部 清寶寺 中川・真隆」師は「中条真隆」師の誤りでした。ここに謹んでお詫びし、訂正いたします。

醍醐寺僧侶職員募集

- 1 僧籍を有する方で、健康で信仰心があり、後進の育成に努力を惜しまない方。
- 2 給与 17万円以上。
- 3 住居を用意（山内居住の場合は居室を用意）。また、通勤の場合は交通費を一部支給。
- 4 休日は年間75日、有給休暇法令通り付与。
- 5 健康保険、厚生年金加入。
- 6 勤務地は総本山醍醐寺。学院の寮監、随行を含め若干名を募集。
※募集要項詳細はお問い合わせください。

京都市伏見区醍醐東大路町22
総本山 醍醐寺

宗派だより

『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議 第四回第一連絡会
令和六年一月十七日(水) 研修棟
出席・浦郷宜右 教学部長、飯田俊海 教学課長補佐、岡田文史

末寺・教会・醍醐寺だより

新潟五大力尊仁王会法要
真言宗醍醐派新潟二酉会主催 真言宗醍醐派新潟青年会協力
真言宗醍醐派総本山醍醐寺・真言宗醍醐派新潟宗務所

新潟県観光協会・新発田市観光協会後援
五大力尊仁王会法要 新発田市 菅谷寺にて厳修
令和六年四月十四日(日) 午前の部 午前十一時
午後の部 午後二時

当日限定 五大力尊御影(二千円)・五大力尊御朱印(五百円)
※法要に関するお問い合わせは
祇興院 TEL〇二五〇一四二一五七八八まで

初授戒会

令和六年一月五日(金) 午前十一時 伽藍 金堂
受者二十一名

初聖寶会

令和六年一月六日(土) 午前十一時 上醍醐 開山堂
後七日御修法 十四日(日) 結願

令和六年一月八日(月) 開白

教王護国寺 供僧(神供) 三重 別格本山大宝院 岩鶴密雄 僧正
承仕 三重 田村眞悠
随行 北海道 萩原隆明

塔頭 金剛王院一言寺 初護摩供

令和六年一月十七日(水) 午前十時三十分

醍醐寺第百四世座主壁瀨宥雅大僧正入山式

令和六年一月二十二日(月) 午前十時三十分

歴代座主奉告参拝 三宝院 弥勒堂・入山お待ち受け挨拶 三宝院 表書院
第百三世順和大僧正焼香 三宝院 伽藍 奥居間 金堂

醍醐寺用達会物故者法要

令和六年一月二十四日(水) 午後四時 三宝院 弥勒堂

伝法灌頂

令和六年一月二十六日(金) 午前八時開壇

受者 伝法学院生 七名
三宝院流憲深方特別伝授 五名
醍醐派末寺徒弟 三名

三昧耶戒 三宝院 純浄観
初夜 金剛界 三宝院 弥勒堂
後夜 胎蔵界 三宝院 弥勒堂

本庁からのお知らせ

総務部より

宗教法人の寺院・教会は、毎年会計年度終了後四月以内に役員名簿と財産目録の写しを所轄庁(都道府県庁)に提出することとなっております。(『宗教法人法』第二十五条第四項)
この他にも、収支計算書、貸借対照表、境内建物に関する書類、事業に関する書類の写しが必要となる場合があります(詳細は、真言宗醍醐派宗務本庁ホームページ又は、文化庁ホームページ参照)。
宗務本庁では、これらの書類の写しを本庁にも提出いただくことを、宗教法人並びに非宗教法人の寺院・教会にお願いいたしております。
また、寺院・教会は、適切な運営のため、当該寺院・教会規則に基づき、責任役員及び総代を置かなければなりません。責任役員・総代に欠員が生じた場合、任期満了になられた場合には、速やかに申請を行ってくださいますようお願いいたします。

財務部より

宗費賦課金をご納入いただきました。誠に有り難うございます。
令和五年度の宗費賦課金は三月三十一日が納入期限となっておりますので、まだ納入が済みでない方は、お早目の納付をお願い申し上げます。
また、「宗費割当額報告書」を未提出の宗務所様は早目にご提出くださいますようお願いいたします。
併せて醍醐寺開創千五十年慶讃事業義納金も受け付けておりますので、重ねてお願い申し上げます。

教学部より

九星気学「暦と気学」講習会 (Zoom参加、後日視聴可)
令和六年三月二十五日(月)〜三月二十六日(火) 研修棟

二十五日 午前の部…午前九時三十分〜午後零時
午後の部…午後一時〜午後四時
二十六日 午前の部…午前九時〜午前十一時三十分
午後の部…午後一時〜午後三時

講師…石原明順先生(伝法学院特別講師)
受講料…ご来山参加者は五千円、Zoom参加者は八千円
(但し、令和三年度、令和四年度伝法学院卒の方は無料)
※伝法学院で行っている特別講義の内容そのままを受講できます。
※受講希望者ならびにお問い合わせは教学部まで。

教学部では、さまざまな研修会のご要望を募集しております。
現地での開催希望の場合は宗務所単位や、ある程度の参加人数でのご相談となりますので、是非お問い合わせください。

醍醐寺からのお知らせ

桜会開白 大般若転読法要

令和六年三月十五日(金) 午後三時 伽藍 清瀧権現社

彼岸会

開白 令和六年三月十七日(日) 午前十時 平座理趣三昧 三宝院 弥勒堂
中日 令和六年三月二十日(水) 午前十時三十分 土砂加持法要 伽藍 観音堂
結願 令和六年三月二十三日(土) 午前十時 平座理趣三昧 三宝院 弥勒堂



<p style="text-align: center;">松 栄 堂</p> <p>〒604-10857 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL (075) 212-15590 https://www.shoyeido.co.jp</p>	<p style="text-align: center;">今井半念珠店</p> <p>〒605-10934 京都市東山区大黒町通正面南入 TEL (075) 561-10307 FAX (075) 525-12557</p>	<p style="text-align: center;">上田法衣佛具店</p> <p>〒604-10913 京都市中京区河原町二条西入上る TEL (075) 221-13348 FAX (075) 211-18588</p>	<p style="text-align: center;">土山印刷株式会社</p> <p>〒601-18308 京都市南区吉祥院向田東町14 TEL (075) 312-11321 FAX (075) 313-18521 www.tsuchiyama.co.jp</p>
<p style="text-align: center;">和光印刷株式会社</p> <p>〒602-10012 京都市上京区烏丸通上御霊前上ル TEL (075) 441-15408 FAX (075) 441-14982 E-mail: info@wako-print.co.jp</p>	<p style="text-align: center;">杉本権七法衣店</p> <p>〒600-18304 京都市下京区新町通六条下ル TEL (075) 351-12890 FAX (075) 341-16774</p>	<p style="text-align: center;">山城屋文政堂 藤井佐兵衛</p> <p>〒600-18029 京都市下京区寺町通五条上ル TEL (075) 351-19363 FAX (075) 343-15500 http://yamasa-bunseido.com</p>	<p style="text-align: center;">大住法衣店</p> <p>〒604-18274 京都市中京区小川通三条上ル西堂町 TEL (075) 221-13087 FAX (075) 221-13038 E-mail: oosumihoi@gmail.com</p>
<p style="text-align: center;">大峯山陀羅尼助丸 花谷神変堂</p> <p>〒638-10431 奈良県吉野郡天川村洞川235 TEL (0747) 641-0047 FAX (0747) 641-0070</p>	<p style="text-align: center;">林勘法衣店</p> <p>〒602-10874 京都市上京区河原町丸太町 西筋下ル東土御門町345 TEL (075) 231-12244 FAX (075) 255-16632 E-mail: hayashikan@beach.ocn.ne.jp</p>	<p style="text-align: center;">法衣・仏具製造及び販売</p> <div style="text-align: center;">  <p>井筒法衣店</p> <p>600-8468 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)</p> <p>Tel 075-365-0001 ☎ 0120-075-730 Fax 075-353-7021</p> <p>オンラインショップを 開設しました</p>  </div>	<p style="text-align: center;">田中伊雅佛具店</p> <p>〒600-18453 京都市下京区万寿寺西洞院東入ル TEL (075) 351-12584 FAX (075) 341-18822 http://www.tanakaiga.com</p>
<div style="text-align: center;">  <p>醍醐寺 開創 1150年</p> </div> <p>醍醐寺開創1150年慶讃事業義納金について</p> <p>今般の義納金は、醍醐寺開創以来1150年に亘って受け継がれてきた法流伝承の象徴として「法流の杜」を整備するための大切なものです。</p> <p>詳細はお手元のパンフレットをご確認いただき、是非お早目の納入をお願いいたします。</p> <p>ご不明点は宗務本庁までお問い合わせください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【お問い合わせ】宗務本庁 TEL：075-571-0002</p> </div>		<div style="text-align: center;">  <p>2024年 3/15(金) ▶ 4/15(月)</p> </div> <p>総本山 醍醐寺</p> <p>よりいっそう桜舞う時期に合わせ、2024年より桜会の期間・行事を変更いたします。 ※昨年までの開催期間は、4/1~4/21としておりました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3/15(金) 桜会開白 大般若転読法要 4/ 1(月) 桜会中日 柴燈大護摩法要 4/14(日) 豊太閤花見行列 4/15(月) 桜会結願 恵印三昧耶法要</p> </div> <div style="text-align: right;">  </div>	